

映画『世界が食べられなくなる日』上映会&講演会開催のお知らせ

2014年1月24日(金)上映 15:10～、講演 17:20～（教室）国際学部映画上映委員会

---

## 映画『世界が食べられなくなる日』

2012年/フランス/118分/原題:Tous Cobayes?

ジャン＝ポール・ジョー監督

ジュース、ビスケット、冷凍食品、肉...、地球上の子供たちが、知らないうちに遺伝子組み換え食品を口にしています。スーパーに並ぶ加工食品の**80%**に、遺伝子組み換え作物が混在しているのです。私たちはどんな未来を選ぶか考えなくてはなりません。

HP: [www.uplink.co.jp/sekatabe/](http://www.uplink.co.jp/sekatabe/)

予告編: <http://www.youtube.com/watch?v=gr8DiizVX2s>



## 2014年1月24日(金)

【時間】映画上映 15時10分～17時10分（教室）

講演会 17時20分～18時10分（浅井 隆 氏）

有限会社アップリンク取締役

【場所】文教大学 湘南キャンパス 1402教室（1号館4階）

住所：神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

URL: <http://www.bunkyo.ac.jp/access/shonan.htm>

【料金】 入場無料

【問い合わせ先】 文教大学国際学部事務室(0467 - 54 - 3717)

[b0w41150@shonan.bunkyo.ac.jp](mailto:b0w41150@shonan.bunkyo.ac.jp)（渡辺）

主催：国際学部対外活動委員会（国際教育連帯小委員会）映画上映委員会

本作で、遺伝子組み換え作物の影響と同時に描かれるのが“原発がある風景”。世界第2位の原発保有数58基が稼働中で常にリスクと隣り合わせのフランスと、福島第一原発事故以降の日本。その地に住む農家がどのような影響を受けたのか。『未来の食卓』『セヴァンの地球のなおし方』で“食の重要性”を訴え続けるフランス人監督ジャン＝ポール・ジョーがカメラを向ける。“遺伝子組み換え”と“原子力”、いのちの根幹を脅かす二つのテクノロジーの三つの共通点、それは後戻りができないこと、すでに世界中に拡散していること、そして体内に蓄積されやすいこと。セラリーニ教授は映画の冒頭で警告する「20世紀に世界を激変させたテクノロジーが二つあります。核エネルギーと遺伝子組み換え技術です。これらは密接に関係しています。米国エネルギー省は原爆につぎ込んだ金と技術者を使って、ヒトゲノムの解析を始めました。そこから遺伝子組み換え技術が誕生しました」。

**監督：ジャン＝ポール・ジョー Jean-Paul Jud**

国立ルイ・リュミエール大学卒業後、1979年より監督として多くのテレビ番組の制作を行う。1984年のCanal +（フランスの大手ケーブル放送局）の設立当初より、主なスポーツ番組の制作と中継を担当し、スポーツ映像に革命をもたらす。1992年には自身の制作会社J+B Sequencesを設立。2004年自らが結腸ガンを患ったことを機会に、「食」という生きるための必須行為を取り巻く様々な事象を振り返り、『未来の食卓』を製作。フランスでドキュメンタリーとしては異例のヒット作となる。2010年、環境活動家のセヴァン・スズキを追い地球環境への警鐘を鳴らした『セヴァンの地球のなおし方』では、すでに遺伝子組み換え食品と原発の危険性を示唆していた。その際の来日で、東日本大震災後の日本を取材し、今作『世界が食べられなくなる日』を完成させる。

**講演者：浅井 隆（アサイ タカシ）**

18歳で天井棧敷に入って、寺山修司の天井棧敷舞台監督を経て、87年、有限会社アップリンクを設立。映画の制作・配給・プロデュースを行ない、映画上映やイベントができる「UPLINK FACTORY」、「UPLINK X」や、ギャラリー「UPLINK Gallery」、その他、多国籍レストラン「TABELA」なども運営。8月1日に、休刊していた雑誌「骰子」をweb上でリニューアルオープンし、ジャンルにとらわれない情報発信を続けている。

UPLINK社長： <http://www.uplink.co.jp/>

webDICE編集長： <http://www.webdice.jp/>

Twitter: @asaitakashi <https://twitter.com/asaitakashi>

メール： [asai@uplink.co.jp](mailto:asai@uplink.co.jp)